

令和元年度 県立埋蔵文化財センター企画展

「沖縄県の戦争遺跡－生徒・学生と共に学ぶ－」の開催

戦争遺跡とは

戦争遺跡とは、近代以降の戦争で使用された陣地・防空壕などや、被害を受けた民間施設のことを指します。

アジア・太平洋戦争の中で日本国内における最大の地上戦が行われた沖縄県には、数多くの戦争遺跡が残されています。

県立埋蔵文化財センターでは、文化庁の補助を受けて平成22～26年度までの5カ年にわたって戦争遺跡詳細調査を実施しました。その結果、遺跡は、1077カ所（平成26年度現在）を数えました。

戦争遺跡の重要性

現代を生きる私たちには戦争の悲惨さ、平和のありがたさを後世に伝える責務があります。戦争遺跡を訪ね、証言や説明を聞くとともに、戦争遺跡について調べ、そこで起こった出来事を学ぶことは、郷土の歴史や平和を学習する上で大きな効果をもたらすと考えられます。戦争体験者が年々減少する中で、戦争の風化を防ぐため、戦争遺跡の存在は物言わぬ語り部として、今後よりいっそう重要性が増して行くでしょう。そのためにも戦争遺跡を保存することは大切なことです。

今回の企画展の意義

現在、沖縄戦の記憶を若い世代に継承していくことは、大きな課題になっていきます。そのため当センターは、学校教育現場との連携をはかり、各地に残る戦争遺跡を平和学習の場として活用していくことも重要だと考えています。



美里小学校の奉安殿



留魂塚

そこで今回の企画展では、小学校・中学校・高等学校、大学や教育委員会と連携し、地域の戦争遺跡を対象とした学習活動をおこない、その成果についてまとめたパネルを中心とした展示を行う予定です。また、当センターの文化講座で成果発表会として発表することも計画しています。



期間：令和元年6月4日（火）～6月30日（日）
会場：県立埋蔵文化財センター
 エントランスホール
時間：9:00～17:00（入所16:30まで）
入所料：無料
休所日：月曜・祝日
住所：西原町字上原193-7

問い合わせ

埋蔵文化財センター 電話：098-835-8752

FAX：098-835-8754

